

東日本大震災から3年

愛知芸術文化センターオリジナル映像作品第22弾

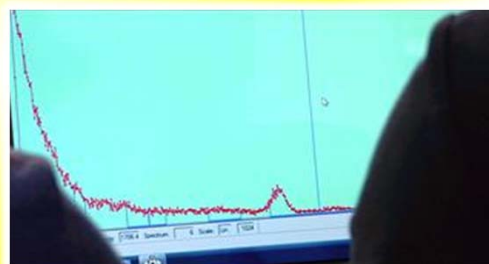
船橋 淳 監督 映画「放射能」上映会



「東日本大震災」後の原発事故で、全町避難を余儀なくされた福島県双葉町の住民たちを追ったドキュメンタリー『フタバから遠く離れて』（2012年）を制作した映画監督船橋淳が、双葉町住

民のその後を「目に見えない放射能とその身体への影響」という視点からアプローチします。

【2013年制作、上映時間:35分】



◇ 上映日時

上映日	3月	第1週				第2週		
		火	金	土	日	金・祝	土	日
		11日	14日	15日	16日	21日	22日	23日
時間	1日3回（①正午 ②午後2時 ③午後4時）							

◇ 場所 アートプラザ・ビデオルーム（地下2階）

◇ 定員 30名（入場無料・申込み不要）

船橋 淳（ふなはし あつし）の略歴

1974年生まれ。映画監督。 東京大学教養学部表象文化論分科卒業後、ニューヨークで映画を学ぶ。 デビュー作『echoes』（2001年）が、「アノネー国際映画祭」（仏）で審査員特別賞と観客賞を受賞。第二作『Big River』（2006年、主演：オダギリジョー）は、「ベルリン国際映画祭」、「プサン国際映画祭」でプレミア上映。 東日本大震災で町全体が避難を余儀なくされた、福島県双葉町とその住民を長期に渡って取材したドキュメンタリー『フタバから遠く離れて』（2012年）は国内外の映画祭で上映。2012年キネマ旬報ベストテン第7位。著書「フタバから遠く離れて 避難所からみた原発と日本社会」も出版。 劇映画『桜並木の満開の下で』では被災地を舞台に物語を展開し、ジャンルを越えて、震災以後の社会をいかに生きるかという問題にアプローチしている。 最新作は、「小津安二郎・没後50年 隠された視線」（NHK）、「フタバから遠く離れて続編（仮題）」。